

当院における訪問リハビリテーションの現状と課題

西岡 清隆⁽¹⁾、中島 均⁽¹⁾、佐藤 恭子⁽¹⁾、楠間 基祥⁽¹⁾、佐藤 美好⁽¹⁾

井原市立井原市民病院 リハビリテーション科⁽¹⁾

【目的】当院では介護保険制度が施行された平成 12 年 4 月から介護保険利用者を対象に井原市全域を圏域として訪問リハビリテーションサービス（以下、訪問リハとする）を提供してきた。今回、病院経営の視点から近年の事業運営を振り返り、また今後のサービス提供の課題を探る。

【方法】平成 22 年 4 月 1 日より平成 24 年 5 月 31 日までの期間に当院の訪問リハ利用者を対象に当院からの直性距離および移動時間を運営実績より調査した。また、当市の高齢化の現状を井原市介護保険事業計画書より調査した。

【結果】利用者件数 36 件、最短訪問先は 600m で移動時間 5 分、最長訪問先は 17.5 km で移動時間は 50 分であった。当院を中心として半径 5 km 圏内の訪問先は 22 件で平均移動時間は 14.6 分、10km 圏内は 9 件で平均移動時間は 26.3 分、10km 圏外は 5 件で平均移動時間は 34.2 分であり、全件での平均移動時間は 20.3 分であった。

【結論】井原市は平成 17 年 3 月に隣接する芳井町、美星町との 1 市 2 町で合併した。平成 23 年 10 月現在での高齢化率は 31.2% であるが旧美星町地区で 41%、旧芳井町地区では 37.7% と地域内でも高齢化率の格差がみられる。今回の調査で高齢化率の高い旧美星町と旧芳井町における訪問先のほとんどが 5 km 圏外であり、標高 200m から 500m の山間部に位置している。これらの地域を含めた市内全訪問先への平均移動時間は 20 分を越えており、担当者会議やカルテ記載など事務的業務を含めた勤務時間内では療法士 1 人 1 日あたり 5～6 件が限度である。事業運営の面からすると、療法士 1 人あたり 1 日の訪問予定を 8～9 件に設定し、実績平均として 6～7 件の訪問を可能にする運営システムを構築しなくてはならない（二神，2010）といわれており、当院の現運営システムではこうした採算に合わないともいえる。しかしながら当市で訪問リハを提供しているのは 3 件だけであり、しかも専任職員を配置しているのは当院だけであるため市内全域を範囲としてサービスを提供することは地域に貢献するという自治体病院としての使命である。当市の高齢者分布を考えれば、今後も 5 km 圏外の地域に暮らす高齢者からの訪問リハ依頼が増すことが考えられ、移動の効率化など一層の運営努力を必要とされている。